



CONTENTS

スペシャリストを目指すあなたへ！	2～3
目からウロコの一冊	4～5
図書館徹底活用術（池田キャンパス）	6
利用者ニーズアンケート調査結果（飯田キャンパス）	7
図書館通信、編集後記	8

労働基準監督官は、労働基準関係法令に基づいてあらゆる種類の事業場に立ち入り、事業主等に法に定める基準を遵守させるとともに、労働条件の向上を図ることを任務とする厚生労働省の職員ですが、「労働基準監督官採用試験」という国家公務員試験に合格した者の中から採用され、任官しています。

仕事の内容は、賃金不払や解雇などの申告相談業務、会社や工場に立入調査を行う監督指導業務、労働災害が発生した際の災害調査、また、特別司法警察員として捜査を行う業務など多岐にわたりますが、労働者の生命と健康を守り、労働条件の確保・改善を図る使命感を持って、全国各地の労働局、労働基準監督署などで働いています。



進徳幼稚園
幼稚園教諭
須田 聡子

山梨労働局
労働基準部長
小野里 八郎



学生の皆さん、こんにちは。幼稚園に勤務して16年になります。紙芝居や絵本の読み聞かせの時、色々な声を使い分けながら読み進める事が出来るようになったのは、学生時代、人形劇クラブに所属していた事も、影響しているように思います。週末になると、地域のお祭りや公民館に呼ばれ、公演をする事が多々ありました。人前で演じたり、地域の方々と触れ合った事。当時の私なりに、どんな声が聞きやすいか、声のボリュームはどうか考え悩んだ事が、今の私の力になっていると感じます。文研出版『もこもこもこ』という絵本も、演じる事を楽しめる一冊です。

スペシャリストを

私は現在、日本の大学で留学生の日本語クラスを担当しています。以前から漠然と色々な国の人と会える仕事がしたいと思っていたので、卒業後は日本語教師養成講座に通いました。そこで出会った人たちはとても魅力的で大きな刺激を受けました。やがて、日本語学校で教鞭をとる機会を得ましたが、国内で働くうちに海外でも働いてみたいと思い、応募して、北京の大学に行きました。

大学卒業の頃は今日の生活など全く想像もしていませんでしたが、今振り返ると、興味のある方へ目が向き、足が向いてきた結果のように思います。皆さんもぜひその気持ちを大切に、自らの道を一步一步切り開いていかれることを祈っています。



山梨学院大学
非常勤講師（留学生担当）
原田 かおり（写真前列右）

認知症対応型グループホーム
雀のお宿
介護福祉士 深澤 光子



私は介護の仕事が好きで、また好きな人にして欲しいと思っています。縁あって、人生の先輩たちの最終章に参加させてもらっているという緊張感と責任感。でも、人間くさくて、泣いて笑って怒って…毎日変化があつて、飽きることはありません。

肉体的・精神的にきつい時もありますが、それには代えがたいものを、お年寄りに無言のうちに教えられています。それぞれの歩んできた人生を、ご本人やご家族が悔いすることないように、支援したいと思っています。若い皆さんにとっても、学ぶことの多い仕事かと思います。「ありがとう」という言葉が似合う仕事です。

ICUに勤務して数年経過した頃、「私の看護はこれでいいのか」など自問する日々を送っていました。そんな時、集中ケア認定看護師の道を進められチャレンジしました。集中ケア認定看護師は、重症かつ集中治療を必要とする患者・家族に対し、障害の程度を最小限に回復できるように、日常生活の援助を通して意図的に早期リハビリテーションを実施していきます。高度医療の進歩に伴う最新の知識や技術も必要となるため、図書館でインターネットでの文献検索や書籍・雑誌の閲覧等も行いながら情報収集し、日々の実践に活かしています。



山梨県立中央病院
集中ケア認定看護師
小林 加奈



山梨県看護協会立
荒川訪問看護ステーション
皮膚・排泄ケア認定看護師
後藤 茂美

「来てもらってよかった。私達はストーマのこと、わからなくて。本人が一番気にしていたから。」末期と診断された療養者の母親の言葉です。私は在宅をフィールドとして褥瘡・ストーマ・失禁のある療養者に専門的なケアを行う看護師です。“療養者・介護者の安心した生活を支援する”のが私のモットーです。池田キャンパスの図書館は職場から近く、夜間も開館しているため、仕事帰りに利用しています。認定看護師には人間性・問題解決力の涵養、探究心を持ち続ける姿勢が必要と常日頃感じています。自身の専門分野・看護にとどまらず、タイトルが目飛び込んだ書籍は手にとるようにしています。

目指すあなたへ！

振り返ってみると、私は学生時代に図書館を頻繁に利用する学生ではありませんでした。しかし、臨床の場ではわからないことや疑問に思うことは自分で調べなければなりません。私たちが行うケアには責任があります。ですから、エビデンスに基づいた実践が求められ、自分の行動の「根拠」を知っている必要があります。私は学生時代からの知識の蓄えがなかったことを後悔することが多々あります。看護者としてスペシャリストを目指すみなさん、今から図書館を活用してエビデンスに基づいたケアをできるようにお互い頑張ってください。



山梨県立中央病院
緩和ケア認定看護師
深沢 久美

緩和ケアでは、看護の視点でのアセスメント能力と実践力が要求されます。緩和ケアの精神を理解し、病態生理学的メカニズム、患者・家族の身体・心理的特徴、コミュニケーション、苦痛を緩和する看護技術など、様々な知識と技術を学ぶと共に、一つひとつの症例を丁寧にアセスメントし、患者中心の看護展開を積み重ねることが重要です。そして、看護とは何かを考え、自分自身の看護観・死生観を持つことが大切になります。お勧めの本は「緩和医療学（恒藤暁著）」です。図書館を活用して、是非読んでみてください。参考になると思います。

磐田市立総合病院
助産師

西原 由紀乃
(写真左下)





『パズル』

山田悠介著
角川書店(角川文庫)

この本の内容は、超進学校のさらにエリートだけを集めたクラスが突然正体不明の武装集団に占拠され、人質となっている担任教師の命を助けなければ協力して学校中に隠されたパズルのピースを集め、48時間以内に完成させなければならないという話で、その中で人への思いやりなどを学んでいく。

確かに頭が良いに越したことはないが、挨拶をする、周りのことも考えるというようなことの方が大切であると改めて考えさせられた本です。

国際政策学部総合政策学科
2年 保坂 香

『白夜行』

東野圭吾著
集英社(集英社文庫)



私は、昔から読書が好きでしたが、これまでこんなに長い作品を読むことはありませんでした。ある機会があり、この作品を読むことになりました。読み終えるまでにとっても頭を使いました。登場人物がとても多いので、じっくり読んでいかないと途中で混乱してしまうかもしれません。また、所々に後の事件の伏線となるような箇所があり、何度も読み返しながら読み進めました。この作品の特徴は、主人公二人の内面描写が一切ないところです。したがって、読者によって様々な解釈が可能でしょう。私は読み終えたあと、暗い気持ちになりましたが、人によって感じ方が違うかもしれません。色々なことを考えさせる作品です。

国際政策学部
国際コミュニケーション学科
3年 池谷 唯



『アヒルと鴨のコインロッカー』

伊坂幸太郎著
東京創元社

私がオススメしたいのは、最近映画化された『アヒルと鴨のコインロッカー』です。

大学生の椎名が出会ったのは、悪魔めいた印象の河崎という男でした。初対面でいきなり「一緒に本屋を襲わないか」と持ちかけられたり、河崎の謎の発言に振り回される椎名ですが、何故そんなことを言ったのか読み進めていくうちに少しずつ明らかになっていきます。そして過去と現在が交り合う最後には、まさかの真実が用意されています。

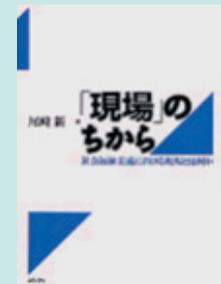
一度読み出すと、河崎は一体何者なのか気になって最後まで一気に読んでしまいますよ。タイトルの意味が知りたい人はぜひ読んでみてください。

人間福祉学部人間形成学科
3年 渡部 由香

『「現場」のちから』

社会福祉実践における現場とは何か

尾崎 新編
誠信書房



社会福祉の現場は、矛盾や葛藤に満ちた場であると言われています。私もソーシャルワーク実習の中で、クライアントの抱えている問題の複雑さに直面し、援助者としてどうすることもできない無力感を感じる場面がありました。しかし、この本に出会い援助者として葛藤、無力さを感じることに援助の出発点であると知り、同時に福祉現場のもっている魅力や強さに気がつきました。福祉現場で働きたいと考えている人や現場実習に行く人にお勧めしたい本です。

人間福祉学部福祉コミュニティ学科
4年 佐野 泰史



『送り火』

重松 清著
文藝春秋刊

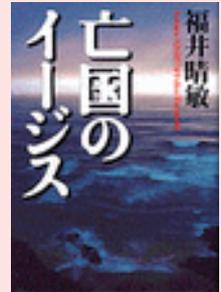
私にとって「目からウロコ」の本は重松清の『送り火』という本です。その本の中の短編『よーそろ』について紹介したいと思います。

この本は「命」について改めて考えさせられるとともに、人間関係について思い悩んだ時に救いの言葉を与えてくれる本です。短編の中に登場する「ムラさん」はインターネット上で、自らのホームページから様々な言葉を送る旅人です。私はムラさんの言葉によって、今までの考えが覆されたような気がしました。しかし、ムラさんの本当の正体を知ることによって大きな衝撃を受けます。皆さんも是非読んでみてください。

看護学部看護学科
1年 藤牧 由香梨

『亡国の
イージス』

福井晴敏著
講談社



「よく見る、日本人。これが戦争だ」

舞台は海上自衛隊最新のシステム護衛艦「いそかぜ」。人生は耐えることの連続でしかないと考える男、息子を国家に殺された男、誰かに必要とされる人生を望んでいた男。別々の人生を歩んだ人間たちの思いが複雑に絡み合い、国を動かしてゆく。理論ではなく、自らの生き甲斐のために生きる男たちの物語。

在り続ける平和に身を任せ、自己決定能力を失った日本に突きつけられる戦争の牙。国家のあり方とは、国民の守るべきものとは——はつきりとした形を持たない"日本"について考えさせられます。

看護学部看護学科
2年 坂本 美緒



『春は残酷である』

(障害とともに生きる 8)

星三枝子著
日本図書センター

自分は『春は残酷である』という本を紹介したい。この本は、著者でありスモンの被害者でもある星三枝子さんの手記である。彼女はもともと健常者であったが、病院が処方した薬によってスモンの被害者になった。医療は人の命を救ったり人の身体を健康にすることを目的とされるが、時としてその医療が加害者となりうる。そうなれば医療への信頼は失われてしまう。この本は薬害によるものだが、実際の医療被害者の気持ちを知ることが医療の持つ責任を実感させられ、また障害者の気持ちも理解できるので、とても良い教養となると思う。

看護学部看護学科 3年 金 晃也

『さおだけ屋は
なぜ潰れないのか？』

—身近な疑問からはじめる会計学—

山田真哉著
光文社(光文社新書)



「たーけやーさおだけー」のメロディはほとんどの人が聞いたことがあるのではないのでしょうか？ そのさおだけ屋に対してタイトルのような疑問を持ったことがある人もいます。そんな日々の生活に転がっている“身近な疑問”から会計の考え方を身に付けることが出来るのがこの本の特徴です。会計の考え方までいなくても日頃感じていた“身近な疑問”の答え合わせをするだけでも、目からウロコが落ちてくるかもしれません。新書には難しいイメージがあるかもしれませんが、この本はとても読みやすいので是非読んでみてください。

看護学部看護学科 4年 渡邊 朝美

図書館徹底活用術!

Ikeda Campus



看護学部看護学科
3年 中村 温子

昨年度は卒業研究と看護師国家試験の為、よく図書館を利用しました。

研究ではデータベース検索で医中誌Web・JDreamⅡ・CiNiiから必要な文献を検索して、取り寄せました。医中誌Webは最新の医学情報が、CiNiiは広い分野での検索が可能で、福祉制度や科学技術の内容の文献なども得られ、卒業研究を広い視野で考えられました。PubMedからは英語の文献を検索し、自分の研究のAbstractを作成しました。

実習中は受け持ち患者さんの病態に関する基礎知識から看護計画・実施までを短期間で仕上げるのに雑誌を利用しました。国家試験の特集もあり、制度の変更などとても有効でした。



大学院看護学研究科
1年 沼倉 聡子

図書館には、看護系に限らず様々な分野の図書や雑誌があります。私は、レポートや課題を作成するとき、文献検索をするときなどに図書館を利用しています。ビデオやDVDも豊富で、授業の前や後に図書館で視聴しています。図書の検索は、自宅でもホームページから検索できます。自宅に必要な図書を検索し、翌日借りにいくといったこともしています。また、司書の方に、オンラインデータベース検索講習会を開いていただき、論文を検索するのにとても役立っています。国内の論文に限らず、海外の論文を検索するのも有効です。



大学院看護学研究科
2年 今井 美希

私は現在修士論文に取り組んでいます。なかでも、文献検索には多くの時間を費やし、司書の方々には大変お世話になっています。大学院では、あらゆる領域の国内外の文献を必要とするため、本学に所蔵がない場合もあります。そのような時も、司書の方が迅速に対応して下さい、他の大学、国会図書館等への問い合わせや、複写の取り寄せをして頂いています。また、遠方の図書館の場合には、出向かなくても貸し出しを受けることができました。便利で、かつ司書の方々はいつも笑顔で対応して下さい、図書館は私にとって癒しの空間でもあります。



山梨大学医学部附属病院
看護師 古屋 幸太

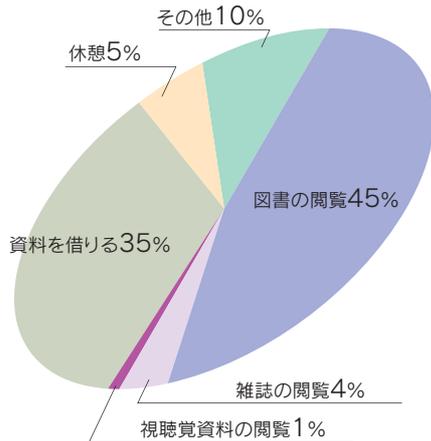
私はこの春“県立看護短大”を卒業し…無事に新人看護師として働き始めました☆私は混合病棟に配属されたのですが、看護図書館には幅広い書籍があるため、就職した今でも何度も利用しています!患者さんの病態を理解したり、検査や治療、術式、薬の作用・副作用を調べたりと、充実した学習に取り組むことができます♪学生時代には、実習中の(膨大な)記録を仕上げたり…国家試験の勉強を(あきらめずに)したり…様々な思い出があります。また、司書の方はとても明るく接してくれるので、居心地がよく学習できるところだと感じています!

県立大学図書館利用者 ニーズアンケート調査結果

lida Campus

県立大学図書館(飯田キャンパス)では現在の図書館利用の実態を把握し、今後の運営の参考にするため、今年6月16日～27日に「図書館利用に関する調査」を実施しました。2週間で468人の方から回答をいただきました。ご協力ありがとうございました。

調査結果の一部についてここで紹介します。

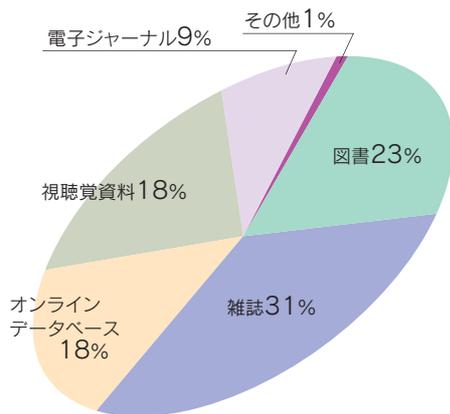
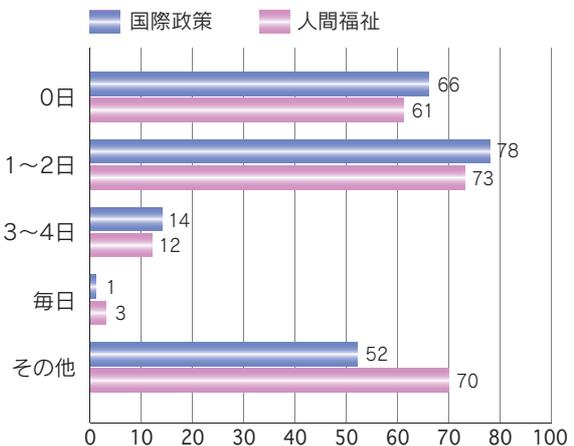


利用目的

利用目的については「図書の閲覧」が45%と最も多く、次が多いのが「資料を借りる」の35%であった。「その他」の中では、「勉強」と「新聞の閲覧」という回答が多かった。

利用頻度

利用頻度では、週に1～2日という回答が最も多かった。一週間の利用日数が0日という回答もかなりあった。「その他」の中では、月に3日という回答が多かった。



資料についての要望

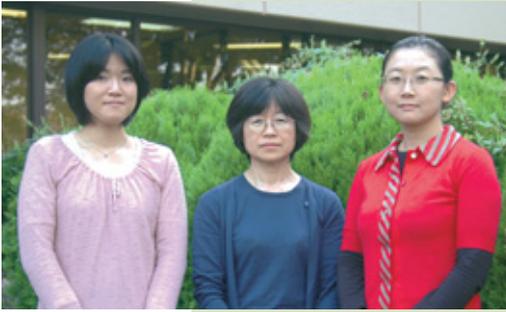
資料についての要望では、雑誌を増やしてほしいという声が多く、図書、オンラインデータベース、視聴覚資料と続く。どのような図書を所蔵してほしいかという質問には、現代小説という答えが全学年共通して一番多かった。

その他、図書館に対する要望としてロッカーに荷物を入れるのが面倒であるという意見が目立った。加えて、鍵をカウンターで受け取るシステムを、煩わしいという意見も多かった。

2006年のYonzya第1号「飯田キャンパスVOICE」で自由に使えるパソコンを図書館に望む意見がありましたが、現在は8台設置されています。少ないという指摘のあった分野の資料もかなり充実してきています。昨年は館内の環境も改善され、座席数も大幅に増やしています。今回のアンケートでも様々な意見が寄せられ、考えさせられる点が多くありました。すべての要望にすぐに応えることはできませんが、図書館の改善に役立ち、実現可能性のある要望については積極的に採用して、より多くの人に利用してもらえるような図書館にして行きたいと思っています。

県立大学図書館

Iida



県立大学図書館(飯田キャンパス)では今年4月からDVDの貸出を始めました。一昨年から1階閲覧室入口に設置されているビデオ・DVDコーナーですが、利用者の皆さんからの要望に応じて、DVDについては学生・教職員を対象に貸出をしています。著作権保護のため、すべての作品をお貸しすることはできませんが、ケース背表紙の上部に青い丸シールが貼ってあるDVDは、貸出可能なものです。皆さんからの購入希望を受けて、現在さらに点数を増やしているところです。貸出期間は3日間。貸出点数は1度に1点となります。邦画・洋画とも過去の名作から現代の話題作まで、いずれ劣らぬ名作揃いです。図書館に来た時にはDVDコーナーも是非チェックしてみてください。

県立大学看護図書館

Ikeda



土曜日開館と平日貸出時間延長のお知らせ

4月から、土曜日の開館を始めました。開館時間は9時から17時です。また、平日の貸出時間を20時まで延長しました。どうぞご利用ください。

山梨県内の看護・医療・福祉に関する資料の寄贈をお願いします!

看護図書館では、学生の教育、研究に役立つため、県内で発行された看護・医療・福祉関係の資料を集めています。収集対象は、下記のもので、年1回、各関係機関に寄贈の依頼を行っています。関係資料を発行されましたら、ぜひ、ご寄贈をよろしくお願いいたします。

- 看護関係：看護部要覧、看護基準、看護研究集録、学会誌、報告書、関係団体の会報
病院関係：病院案内、要覧、病院誌、広報誌、記念誌
県・市町村関係：医療・介護・福祉・子育て・食育に関する計画やガイドブック
その他：関係団体の広報誌、患者会資料、闘病記など

看護師、その他医療関係者の方を対象としたオンラインデータベース講習会

事例研究・研究発表などに役立つ文献検索・オンラインデータベース講習会を、ご希望の内容や時間に合わせて開催します。どうぞお申し込みください。

- 会場：山梨県立大学看護図書館
内容：図書館職員(司書)による文献・オンラインデータベースの使い方ガイダンス
実際に画面を見て検索しながら学びます。
申込方法：開催希望1週間前までに、看護図書館へお問い合わせください。
(学内の優先講座等により、日時についてはご希望に沿えない場合もございます。)
講習データベース：医中誌Web、JDream II(日本看護図書館協会会員は無料でアクセス可能)、
CiNii、MAGAZINE PLUS、PubMed
定員：8名まで(パソコンの台数により)

編集後記

図書館広報誌Yonzya第4号をお届けします。
今号では「スペシャリストを目指すあなたへ!」と題して、本学の学部と関係の深い職業についての方々に寄稿をお願いしました。
毎年好評をいただいているお薦めの本特集では、両キャンパスの学生が幅広い分野からとっておきの一冊を紹介しています。
寄稿して下さった皆さん、また、写真の使用を許可して下さった皆さんに改めてお礼を申し上げます。

編集委員 / 千森幹子、平田良江、郷洋子、田中千寿子、小林和美

Yonzya (よんじゃー) Vol.4 2008年12月1日発行

発行

山梨県立大学図書館
甲府市飯田5-11-1 TEL: 055-224-5340
E-mail: lib@yamanashi-ken.ac.jp

山梨県立大学看護図書館

甲府市池田1-6-1 TEL: 055-253-9429
E-mail: toshokan@yamanashi-ken.ac.jp